

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)		-	-	-
		商店街（代表者）	お客様の様子	・アーケードのない商店街では、雨天時は初夏物商材の動きと客足が極端に悪いが、梅雨入りの時期が大幅に遅れたことで、例年より早く売上微増につながっている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・高単価の商品が好調である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	競争相手の様子	・休業している競合店の影響で、売上が伸びている。7月の競合店オープンに当たり、客が減少すると予想している。
		家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・大型連休の悪影響を心配したが、客数も前年を上回っており、高機能高単価商材の動きも良い。このまま消費税特需につながることを期待している。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・消費税引上げによる影響が出ている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・郊外型ショッピングセンターの業績として、シネマ業界は、前年比150%と好調で、キャッシュレス化によるカード販売促進強化も全体として好調に推移している。一方、物販、特にファッション業種は売上が低迷しており、課題は継続している。物販の苦戦は、夏のバーゲンセールの上立ちがりにも表れており、カード販売促進の強化を実施しているにもかかわらず、前年並みとなっている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・情報発信や新しいプロモーション事業に前向きな相談や引き合いが多い。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	競争相手の様子	・同業社の決算は、前年度から好転している企業が多く、季節要因による客の増加及び消費税引上げ前の駆け込み需要も期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・在庫として残っていた物件に値引きをしたところ、4～6月にかけて動いている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・夏の時期になり、地元の野菜が少なくなり、他県のレタスも相場が上がらず、全体的に厳しい。県産物であるトマト、ピーマン、きゅうりも上がりきらず、横ばい状態である。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・今年はしけが多く、入荷量も増えていないのに、魚価が上がらない。また、安い商品でないと売れず、たまに変わった商品を仕入れても動きが悪い。小売店と同様に、何をそろえれば良いのか分からない状態である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・管理施設は、核店舗が退店し現在リニューアル進行中のため、売上、客数共前年と比較できない状態により、変わらないと判断している。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・売上伸長率や商品単価の回復は継続している。ダイレクトメール催事や自社カード催事と物産催事の同時開催で来店促進をし、話題のパンとハンドメイドフェスタ開催で婦人の来店促進をした結果、婦人雑貨・婦人服の売上と単価の伸長率に改善の兆しが見える。紳士雑貨やゴルフ、スポーツ関連の好調は継続している。
		百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後、消費意欲が伸びる気配は少ない。梅雨入りも例年になく遅く、季節商材の動きに遅れがみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・売上に関しては、前年を維持することが非常に厳しく、特に客数の減少が続いている。単価は若干持ち直しているものの、売上減少をやめるまでに至っていない。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客数が前年比100.2%で推移しており、単価が前年比102%である。ギフトの動きが前年より良いが、青果、鮮魚は苦戦している。3～4月は100%前後で推移しており、横ばい状態である。	
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・九州地方は入梅が遅く晴天が続いているにもかかわらず、販売量は前年に比べて微減である。	

スーパー（統括者）	競争相手の様子	・食品メーカーの値上げが相次いでいるが、競合他社の販売価格には変化がなく、そのまま値上げを行っている小売店は見受けられない。自社内での効率化や投資でカバーする傾向が多く、業績内容も前年比を下振れする可能性が高い。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・梅雨に入り、天候不順で客足が鈍くなり、売上に影響を及ぼしている。食品、菓子の一部商品が値上げし、購買意欲がなくなっている。値上げや消費税上げからくる不安から買い控えが増え、客数や客単価が減少している。このことから、夏場の売上確保の厳しい状況は避けられないと予想している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客はほとんどなく、閑散としている。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・例年よりセール時期が早くなり、プレセールが始まってからの商品の動きはまずまずである。安くなった商品を購入しているが、1点買いが多い。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・入店客数が大きく減少している。天候や気温の影響が大きい。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・この3か月景気は良く、内容的には横ばいが続いている。冬が暖冬だったことが影響していると考えている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・単価の高い新型車が順調に売れている。さらに、車検や点検の売上も堅調に推移し、収益確保ができています。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・来店客数は、前年と変わらないが、客単価については増加しており、売上は前年より若干良くなっている。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	来客数の動き	・燃料油の小売価格は、値下げの傾向が続いている。北部九州の梅雨入りは遅れているが、湿度が増し、自動車のエアコンの使用頻度が増加し、客の燃料油購入頻度がやや増加している。洗車等のカーケア商品の販売も好調である。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数に大きな変化がなく、横ばい状態である。
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・来客数の減少はないが、明らかに単価が下がっている。情勢不安を懸念している。
観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・例年選挙前は、周りの景気が悪くなるが、今回も悪い状態になると予想している。
都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・訪日外国人が多くなり、来客数は伸びているが、単価は上がっていない。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・6月は、G20の影響でかなり販売機会を逃した状態である。施設数増加による影響も考えられる。
タクシー運転手	来客数の動き	・中国の大型クルーズ船の過当競争が原因で、クルーズ船の停泊数が著しく減少し、中国からの観光客数が激減している。また、6月に入っているが、当地における降水量が少なく、タクシー利用者が減少している。
タクシー運転手	お客様の様子	・県外からの団体客が多く、昼のタクシー利用は少ない。夜に利用が集中し、忙しい時間は余りない状態である。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光サービス提供エリア拡大による販売数増加を除けば、横ばいである。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前年度との比較では、販売数が約10%多くなっている。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・梅雨入りをしているが、降水量が例年より低く、増水等が少ない。訪日外国人の客が非常に多く来場している。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・天候によるキャンセル等はあるものの、空梅雨の今年は、前年を上回り順調に入場者が推移している。日曜日の入場者が、若干弱くなっているが、経過観察が必要である。
美容室（経営者）	販売量の動き	・空梅雨の状態が続き、暑くはなっているものの売上は余り上がらない。例年通りの動きが続いている。
美容室（店長）	来客数の動き	・6月上旬は、田植えや運動会等で客足が悪かったが、中旬はその反動で、客数が増えている。しかし、それ以降は変化がない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は、来客数、販売数共に落ち込んでいるが、原因がまだ分からない。

商店街（代表者）	販売量の動き	・高齢者の購買意欲が低い。終活をしている客は、家内の品物を処分している状態であり、購入は必要最低限となっている。
商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は梅雨入りが遅く、天候が良かったことで期待をしていたが、例年以上に来街客数が少ない。単価が下がり、売上も少ない。
商店街（代表者）	単価の動き	・例年この時期は客単価が落ち込むが、今月は更に10%落ち込んでいる。近隣大型店による連続した売出しの影響が大きい。
一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・今月は、忙しい3月と比較すると売上は落ちているが、震災後、新築、新装オープンしたことにより、開店祝いや高単価な誕生日祝いの注文が多く、今までは一番売上がある6月になっている。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・暑い日が続いており、前年より日本茶の売上が減少している。生活用品、食料品の値上げがあり、お茶に掛ける費用が低くなっている。
百貨店（企画担当）	販売量の動き	・今月も、主力である衣料品の動きが鈍く、売上全体の底上げには至っていない。
百貨店（営業担当）	それ以外	・今期の業績を支えていた訪日外国人と富裕層の動きが鈍い。5月は訪日外国人の売上が過去最高であったが、6月に入り、前年比プラスではあるが伸び率が低下している。富裕層向けも、催事が厳しい結果となっている。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客は、消費税引上げの実施がはっきりしないため、商品の購入に迷いが多い。実施されれば多くの客は、購入を控える状況になると予想される。
百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店合計で、前年8月よりほぼ100%をクリアしており、景気が悪い状況ではない。6月は雨の日が少なく、若干底上げがあるが、3月よりは景気が下がっている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・食品は堅調だが、衣料品が厳しい。
スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価が低いものの、セールでは、客数、点数共に増えているが、平日は厳しいものがある。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・大手資本の競合店舗の出店により、価格競争やポイント付与、販売促進企画等の戦略で対抗しきれず、来客数が減少している。
コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・競合店が近くにでき、景気が悪くなっている。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・当市の梅雨入りが記録的な遅さとなり、傘が売れず、雑貨類の売上が悪い。また風の影響で体感温度が低くなり、アイスクリーム等夏の商品が、例年と比較すると売れていない。おでんを長く販売した点は売上につながっている。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・キャッシュレス化や消費税引上げの特別減税による期待もあるが、24時間営業問題等の負のイメージによるダメージが大きい。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・競合店の存在が強くなっている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・売上は例年より減少している。客の動きが鈍く、購買意欲に今一つ盛り上がりがない。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・必要最低限の購入傾向が続いており、前年との比較では、客単価が減少している。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・主たる客である高齢者層において、年金問題等の影響もあり、生活防衛の意識が高まり、購入に対してますます慎重になっている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税引上げが不透明になってきたことで、商品購入の駆け込みが少なくなっている。また、競合他社の新商品が出たことも要因になっている。
その他専門店〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・当市の大型ビルが4月で完全撤退し、その後、かなり売上が落ち込んでいる。
その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	来客数の動き	・インパウンドの著しい低下がみられる。

	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・韓国からの来場客が、ウォン安の影響で減少傾向にある。それに伴い、訪日外国人の売上が減っている。	
	高級レストラン（経営者）	単価の動き	・来客数は、相変わらず減少し、注文単価が低くなっている。	
	観光型ホテル（総務）	販売量の動き	・個人宿泊客が伸びていない。レストランの売上も横ばいである。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・レストランの予約状況は、客数、単価共に低下傾向で、余り芳しくない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・年金問題や消費税引上げ前で、消費動向に影響が出ており、今後の景気が心配である。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・3月は卒業式等イベントが多くあったが、今の時期は何もイベントがない状態で梅雨になるため、景気は悪くなる。	
	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料単価や各種料金は上がり、消費税引上げもあるが、仕事の対価は上がっていない。官公庁の作業員単価は上がっているものの、実際は変わっていない。	
	設計事務所（代表）	お客様の様子	・消費者は、消費税引上げに将来の不安を感じているようである。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・4月以降の受注が若干減少傾向になっている。また、展示場来場数も減少傾向にある。	
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度初めや改元の影響による増加が一段落し、客数が減少傾向にある。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・5月の大型連休の影響は大きく、主婦の財布のひもはかなり固くなっているが、金融庁の2000万円問題で、一層節約モードに入っている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・6月中旬までは出足が鈍く、それ以降は株主総会等の会合で、客が入っているが、以前と比較すると人数が減少している。イベント規模の縮小により単価も下がり、例年と比較すると動きが鈍い。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休後の予約低迷が長引いている。6月に続き、8月以降も燃油サーチャージの値上げが決定し、収益を圧迫するのは必至である。
企業動向関連	-	-	-	
(九州)	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・きゅうりやだいこん等は好調であるが、トマトは相変わらず低迷している。市況が厳しくなっている。	
	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・米中貿易摩擦の影響により、一部事業について中止ないし遅れが生じている。一方で、国内単独ビジネスや半導体では、車載関連の引き合いが依然として強い。	
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・指名入札や一般競争入札が増加している。まだ受注までは至っていないが、発注が増え景気も良くなっていることが実感できており、第3四半期まで続くことに期待している。	
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が前年を下回り、計画の90%という厳しい状況である。居酒屋、外食は計画どおりの数字であるが、スーパーマーケット関連の動きは悪い。メーカー市場が供給過剰のために、価格的にも厳しく、値下げをしなければ減量される状況である。一方、生産は若干原料が多かったが、生産力が上がったため、収益は期待できる。したがって、利益はプラスマイナスゼロの状態である。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月までは、季節性のある商材に比較的順調な受注がある。	
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家具小売は、前年比15%ダウン、ホテル向けコントラクト家具の受注は、約10%のアップとなっており、トータルでは変わらない。したがって、全般的な景気は良くなっていない。	
	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・売価が上がりにくい状態である。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・定番の商品は余り動かず、特注でどこもしいでいる状態である。産地全体としては、下降気味である。	

	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連の状況が良くない。今月は、これらの取引先からの受注量が更に少なくなっている。自動車関連ユーザーの受注拡大を図っていく必要がある。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・ここ数か月は、取引先からの受注が安定している。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・メーカーが消費税引上げ対策として原材料を通常より多く購入している影響により、在庫量が多い。消費税引上げ後の反動が懸念される。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・今年に入り、改元や消費税引上げに関する話題が続いている。消費税引上げの可否が決定するまでは動きが鈍い。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケットの売上が伸び悩み、住宅販売もマンションを中心に鈍化している。一方で雇用者所得は、人手不足を背景に緩やかに増加傾向にある。
	金融業（調査担当）	それ以外	・法人向け融資残高は、ほぼ横ばいで推移している。内訳は、大企業が増加、中小企業が微減となっており、不動産向けは、ほぼ横ばいである。総じて地方企業の資金需要は、引き続き一定の水準を維持しており、3か月前と比べて大きな変化はない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・家電量販店では、消費税引上げ前の住宅購入に伴う大型家電購入の動きが活発になっているが、全般的には前月から大きな変化はみられない。ボーナスの使途も貯蓄志向が高まっており、消費刺激効果は今一つである。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業全般で受注量は確保しているが、人手不足が続いている。設備投資に関しては、機械装置に対する投資が増えているが、それが実際につながっていないのが現状のため変わっていない。
	金融業（得意先担当）	それ以外	・個人向けローンの申込みが多くなり、特にマイカーローンが好調に推移している。恐らく消費税引上げ前の駆け込み需要もあり、金の流れが比較的活発に動いている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・5月は連休もあり、景気が良くない状態が数か月続いている。6月も変わらず停滞している。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・引き合いがあったが、成約には至っていない。同業の集まりでも余り目立った動きはない。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・小型店舗は品ぞろえに限界があり、大型店舗に客は流れ、苦戦している。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況からは、景気に変化がない。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・特に中国向け案件については、米中貿易摩擦の影響から、投資状況を見極めていく。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近受注量が減少している。輸出量が減っているため、景気が悪い。
	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・米中貿易摩擦問題により、半導体製品の生産や金属価格が依然として落ちている。
	その他サービス業 [物リース]（支社長）	競争相手の様子	・競争相手の決算内容が徐々に公開されているが、金融収益が減少し、手数料や海外収益が増加している。国内では低金利が続き、回復できず、周りのレート競争も相変わらず厳しい。
	× 繊維工業（営業担当）	それ以外	・最低賃金の上昇により、資材が値上げしている。今後、その上昇をカバーする余裕はない。
	× その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から発注される調査や計画策定の業務を受託しているが、市町村からの発注量が少ないことから、予算額の5～6割で落札することが頻繁にみられ、入札時にダンピングして落札する業者が増えている。
雇用 関連  (九州)	-	-	-
	*	*	*
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣登録者数が徐々に減っており、直接雇用の求人が増えているが、それでも人手不足の状況は依然として変わっていない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・上向き傾向が感じられる市場は余りなく、求職者の動きも直接雇用に向けた動きが多い。

	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・一頃の採用難の状況に一服感が出ている。介護関係等のサービス業以外の求人が出始めている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の減少傾向が明確になりつつあるが、若干の減少傾向とみており、引き続き動きを注視している。ただ、製造業の求人は低位のままであり、米国と中国の貿易摩擦の影響もある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、ここ数か月連続して減少傾向にある。求職者も減少しており、求人倍率は高止まり傾向であるが、事業所は採用に対して、悲観的状況である。高校卒業者向け求人については、求人数は前年並みであり、継続して高い採用意欲がみられる。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・5月の求人数は、例年より減少しているが、採用者数が増加したことで、景気動向に変動がない。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2020年卒業採用では、採用活動を継続している企業は多いが、前年より活動比率は低く、求人受理件数も前年度より少ない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・婚礼司会の請負を行っているが、6月はG20の影響からか、件数が少なく売上も低迷している。選挙期間中も余り案件が動かず、見込みが立たない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・長期の新規求人事務案件が、前年に比べ減少している。
	x	-	-